

図14

同時期に誕生した諸聖人

名前	ソクラテス	イエス・キリスト	釈迦	孔子
生 歿	前470～前399	前4～後30頃	前463頃～前383※諸説有	前551/2～前479
生涯	40歳ごろから思索を始め、市民との対話を通じて、あるべき生き方を説いた。毒杯を仰ぎ刑死	30歳のころに洗礼を受け、神の子としての自覚を持ち神の愛を伝道した。十字架にかけられ刑死	29歳の時に出家し、35歳の時に菩提樹の下で真理に目ざめ悟りを開いた。病で死去(入滅)	52歳の時に魯の官吏となるが、後に去り、14年間諸国を遊説し、徳治政治を説いた。74歳で死去
継承者	プラトン、アリストテレス	ペテロ、パウロ	摩訶迦葉、阿難陀	顔淵、子貢、曾参、子思
文 献	『ソクラテスの弁明』、『クリトン』	『新約聖書』	『スッタニパータ』、『ダンマパダ』	『論語』
言 葉	「ただ生きるということではなく、善く生きるということ」	「自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい」	「あらゆる生きとし生けるものが安楽であるように」	「己の欲せざるところは人に施すことなかれ」
概 念	プシュケー(魂)、アレテー(徳)	アガペー(神の愛)	ダルマ(法)、ニルヴァーナ(涅槃)	仁、忠恕
現在形	哲学、倫理学	キリスト教	仏 教	儒 学
一貫性	人 心 の 開 発 と 救 済			
共通性	最 高 道 徳 の 実 行 者			

諸聖人は地球上の東西にわたる地域に同時期に誕生し、
人類の教師として生きる指針を示しました。

モラロジーでは、諸聖人の精神や事績に共通する道徳を「最高道徳」と名づけています。

文化によって独自の解釈が生まれ、さまざまに派生していきました。その過程で、宗教などでは衝突が引き起こされてきたのも事実です。こうした対立の歴史を繰り返さないように、人類は今、新たな段階を迎えているのです。

その一つに、今日、グローバル化が進む中で、宗教や文化の違いを乗り越え、互いに多様性や特殊性を認め合い、共生を図ろうと、人類共通・共有の「コモン・モラリティ」(共通道徳)を形成しようとする動きがあります。

モラロジーは、諸聖人の示した「最高道徳」を固有の宗教や文化の中にとどめることなく、その多様性や特殊性の中に共通性を探り、現代の諸科学の知見も取り入れつつ、人類の安心、平和、幸福を実現する道徳を確立しようとする学問です。

そうした意味では、今日人類に求められている「コモン・モラリティ」の形成に、あるいは新たな倫理・道徳の構築に、モラロジーの「最高道徳」は大きな示唆を与え得る可能性を十分に有しているのです。

今月の範囲

第一部 基礎編

第四章 普通道徳から最高道徳へ

三、聖人の精神の継承と発展

モラロジー研究所の概論講座で使用される改訂『テキスト モラロジー概論』について、今月は「人類の教師」といわれる諸聖人の共通点を図解します。



モラロジーを楽しく、平易に学びたい——。そんな要望にお応えして、この連載では改訂『テキスト モラロジー概論』の内容を図で解説します。ご自身の学習に、あるいは勉強会の資料としてご活用ください。

構成＝「れいろう」編集部

諸聖人の精神の継承と発展

——「最高道徳」に学ぶ

教育研究室研究員 えしまけんいち 江島頭一

現代社会には、複雑で深刻な問題や課題が山積しています。モラロジーでは、その改善・解決の糸口を世界の聖人(ソクラテス、キリスト、釈迦、孔子)の心づかいと実践に求めています。そして、聖人に共通する、自己の利害を超えた道徳を「最高道徳」と捉えています(前号「最高道徳の特質」)。

こうした聖人とその精神は、紀元前六世紀から紀元後一世紀にかけて、地球上の四つの地域に並行して誕生した人類の「精神革命」とも呼ばれています。

すなわち、人類の心の内に変革が生じたのです。その後、聖人の精神は弟子や門人によって受け継がれるとともに、広く行き渡り、今日では、図14に整理されているように、それぞれが哲学・倫理学、キリスト教、仏教、儒学として、多くの人々に影響を及ぼしてきました。こうして諸聖人の精神は時代や地域を超えて、維持・発展される、いわば道徳の系統として、今も私たちに生きる指針を与えてくれています。

しかし、一方で諸聖人の教説は、学問や宗教という形として、受け取る人や、